

ほおぼる幸せ。富山米

産地間競争に
打ち勝とう!



今年も、「高品質・良食味」な米づくりのための基本技術の徹底をお願いします!!

● 対策のポイント ●

- ① **5月15日中心**の田植えの確実な実施
- ② **適期中干し**による過剰な籾数の防止
- ③ こまやかな**施肥・水管理**による稲体活力の維持

「元気な富山米ブランド」確立のための重点技術対策

～今年も、1等米比率90%以上～

1 5月15日中心の田植えの確実な実施

1 田植えは5月15日を中心に!

- 出穂後の高温を避けるため、田植えは5月15日を中心に実施

田植え日と出穂期及び登熟期間の気温

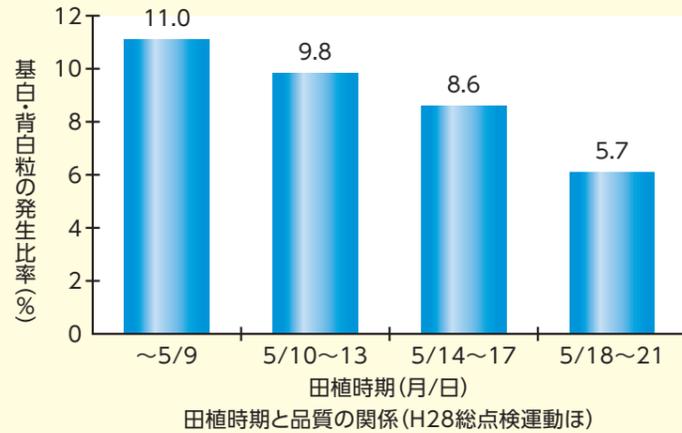
田植え日 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂後20日間の平均気温(℃)
5/5	7/29	27.6
5/10	8/1	27.5
5/15	8/4	27.3
5/20	8/7	27.0

※出穂期及び気温は近年値(H20～29)を用いた



出穂後の高温を回避し、基白・背白粒の発生が減少

出穂後の高温で発生する未熟粒



2 田植時期に合わせた播種・育苗を!

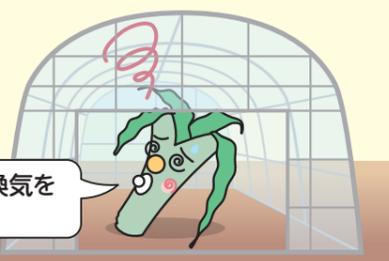
- 苗の活力を維持するため、播種はあわてずに4月25日頃に、育苗日数は20日間以内に!!
- 4月下旬以降は気温が上昇し、苗が長くなりやすいので、搬出直後から換気を

育苗計画の目安

浸種日	播種日	田植日	育苗日数	出穂期
4/8頃	4/18頃	5/10	22日	8/1頃
4/16頃	4/25頃	5/15	20日	8/4頃
4/24頃	5/2頃	5/20	18日	8/7頃

育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30℃	25℃以下	
温度 夜	30℃	10℃以上	



搬出直後からの換気をお願いします!

2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止

1 初期茎数の確保を!

- 栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底
- 土壌に応じた基肥窒素の施用
砂壤土3.0～4.0kg/10a
埴壤土1.8～2.6kg/10a

植付深さ3cmで充実した分けつを確保



植付深さによる分けつ発生の違い

中干しで根っこいきいき!

2 溝掘り・中干しの徹底を!

- 中干しは田植え後1か月頃に遅れずに
- 中干し前には**確実に溝掘り**しましょう
- 中干し後は、**間断かん水**

管理機で効率的な溝掘りを実施



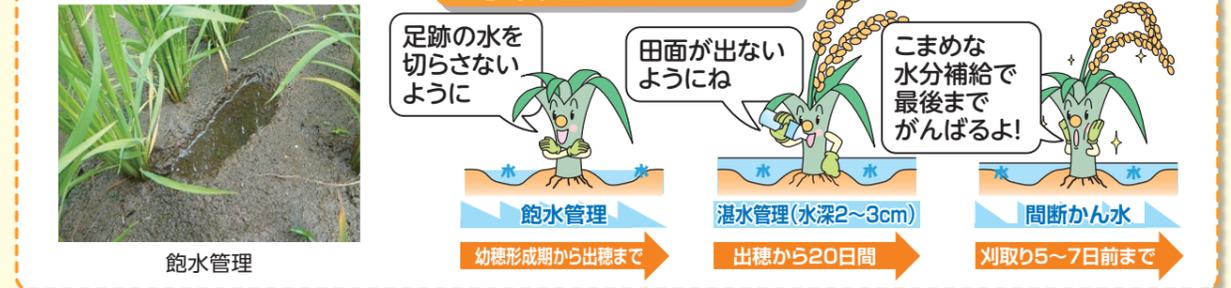
乗用管理機による溝掘り作業 中干しによる根の違い

3 稲体活力の維持

1 こまめな水管理を!

- 幼穂形成期以降は**飽水管理**、出穂後20日間は**湛水管理**
- 刈取り5～7日前までは**間断かん水**

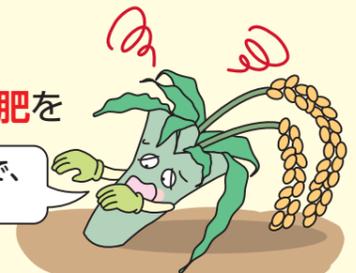
水管理のイメージ



2 的確な穂肥施用を!

- 穂揃期の葉色を4.2～4.5(砂壤土は4.5)に誘導
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が薄い場合は**追加穂肥**を

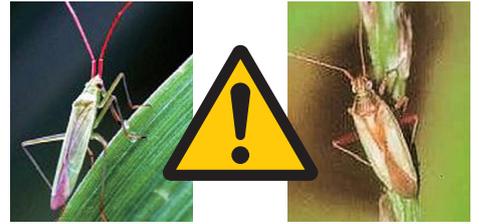
葉色が薄いと体力切れで、フラフラだ～



斑点米カメムシ対策の徹底

1 カメムシの発生・増殖しにくい環境づくり

- 麦跡田では、大豆、園芸作物、緑肥等の栽培で、雑草の繁茂を抑制
- 畦畔等の雑草地は、**イネ科雑草の穂が出る前までに草刈り**



アカヒゲホソミドリカスミカメ アカスジカスミカメ

2 割削の発生軽減

- ケイ酸質資材の施用
- 適正な栽培管理による目標 粍数の確保

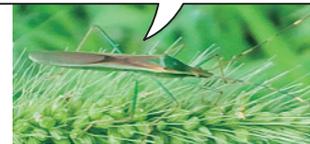


粍が割れると、カメムシが米を吸汁しやすくなる

山際を中心として、大型のカメムシ(15~17mm程度)が増えています。対策の徹底を!

3 適正な防除の実施

- **防除効果の高い薬剤の使用**
- 早生品種は、**穂揃期と傾穂期の2回防除の徹底** (防除後もカメムシが多い場合は追加防除)



クモヘリカメムシ

信頼される「安全・安心」な米づくり

消費者に選ばれる安全・安心な富山米を生産するため、「とやまGAP」に取り組ましよう

◆安全な米づくり

農薬・肥料の適正使用、異物等の混入防止など

◆環境の保全

廃棄物の適正処理、住宅地への農薬散布の周知と飛散防止など



春の農作業に向けて今から出来る安全対策

ハウスのビニール張りやトラクターによる耕起作業など、春の農作業時には毎年、事故が発生しています。

オフシーズンのこの時期に、危険な作業を見直し、事故防止対策を徹底しましょう。

● 農業機械の点検・整備

⇒ 定期交換部品の交換や安全装置・保護カバー等の安全装備も含めて点検し、整備不良による事故を防ぎましょう。

● 施設などの危険箇所の改修・見える化

⇒ 施設の危険箇所を確認し、共有しましょう。

● 農場のルールづくりと作業教育

⇒ マニュアルを整備したり、研修を行ったりすることで事故を防止しましょう。

